

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：旧初自治会

開催場所：旧初公民館

開催日時：平成 29 年 2 月 1 日（水）19 時 00 分～20 時 45 分

参加者：自治会側【地域住民の方 19 人】

市側【染谷市長、牛尾理事、鈴木市長戦略部長、眞部危機管理部長、今村こども未来部長、三浦秘書課長、秋山協働推進課長、小玉初倉公民館長】

内 容

① 太田自治会長あいさつ

・皆様からいただいた質問については事前に市に提出しているが、それ以外で皆さんから直接市長に質問があればよろしくお願いします。

② 市長からの市政報告

■はじめに

- ・この車座トークは、市内全ての 68 自治会をまわっている。
- ・平成 28、29 年度の 2 年をかけて平成 30 年からの島田市第 2 次総合計画を策定する予定。今後 8 年間の島田市の設計図になる。中心市街地活性化基本計画、国土強靱化計画、国土利用計画などの今後 10 年の島田を左右する計画を一気に策定するため、皆さんから地域の特色や課題をお聞きして、かつ、これからの市政がどうあるべきか話をするためにまわっている。
- ・本日、東京に出張して「かわまちづくり全国会議」に出席した。全国から 16 自治体が選ばれ、どのような河川の利用をしているのか発表した。
- ・島田市の河川敷はスポーツ広場が整備されており、これほど河川敷占有許可をいただきスポーツ広場ができていない自治体は無い。
- ・リパティは災害時の緊急輸送道路だが、平常時はマラソンコースとして使わせてもらっており、大井川マラソンも大変盛況。
- ・国土交通省も規制緩和をしてくれる時代となったため、蓬萊橋にお休み処、物販施設、新しいトイレ等を造りたい。川まちづくりミズベリング協議会を組織し、整備をするにあたっては大井川左岸側（蓬萊橋から博物館まで）と右岸側（蓬萊橋周辺）のエリアを設定して、水辺に親しむ空間をつくる計画を策定した。国の採択を得て 4 月からの予算を付けていただき、今年秋までには蓬萊橋周辺に施設を造りたい。

■これからの行政のあり方、地域の抱える課題への取り組みについて

- ・島田市の人口は 10 万人を切ってしまった。2040 年には 8 万 6 千人になるという統計がある。日本中の人口が減っている。地方創生により東京一極集中

に歯止めをかけようとしているが変わらない中、労働人口が減り、一方で島田市の高齢化率が高くなっている。

- ・島田市民病院は、入院患者の53%が75歳以上。人口が減っていく2040年も高齢化率は高い状況の中、病院の整備は待った無し。
- ・2010年と2020年を比較すると、労働人口の減少等で約8億5千万円税収が減るという試算がある。さらに、島田市と金谷町が合併して10年間は、地方交付税の加算額をもらっていた。10年経過後から5年間は段階的に加算額が減額されて島田市一つ分の地方交付税にするとされている。その加算額が12億円。労働人口減少分と合わせると約20億円減少する。
- ・一方、医療・介護・福祉等の民生費は、島田市一般会計の33%を占めた。一昨年まで約3割だった。3%増が10億円増加となる。
- ・将来の島田市に住む若者に希望・夢・新たなことを選択することができるまちを残すため、人材育成と同時に財政健全化を強く進めている。
- ・ここ数年で30億円以上の借金を減らし、貯金は約20億円増やし、基金は125億円ある。
- ・借金は減らしてきたが、今後は市民病院の建設等でお金を必要とすることが続く。市民病院は、平成32年度完成を目指し平成30年から建設が始まる。基本計画で示した事業費は247億円で、うち医療機器は約40億円。
- ・市内で入院できる医療機関はここにしかない。島田市民の命と健康の拠り所。しっかりした病院を造らないと、市民も安心できないし、良い医師も来てくれない。長い間、島田市民病院は京都大学系の病院と言われてきたが、大学から「常に医師を送り続けることはできない」と言われた。理由は、医局制度で大学が医師の派遣先を決めていた時代でなくなり、若い医師は研修場所を自分で選べるようになった。新人研修医は大都市圏に集まり、地方に行く人が減っている。
- ・浜松医大との連携を考え、定期的に学長と話をしている。現在も浜松医大から来た医師がいるが、4月に更に2名の先生が浜松医大から来てくれる。10月に藤枝の病院の医師が島田市に移ってくれた。しっかりとパイプを作り、色々なところから医師が来てくれているが、良い病院と共に良い医師を集めることが大事なことだと思う。
- ・金谷インター周辺の土地利用もお金がかかる。84ヘクタールの土地の農振除外と、そのうち4分の1の土地改良区の受益地を外すことで調整している。国に申請書を受け取っていただけの目処が立った。それができれば、平成29年度はインフラ整備（道路、水路、企業誘致のための設備）をしなければならない。また、国道473号と新東名が交わる所の下に日本一の売り場面積を誇るマルシェ、大井川鐵道新駅、新東名下に大規模駐車場を造る計画。平成30年5月頃着工予定。平成31年にはオープンしたい。
- ・学校も昭和50年代初めに多くの学校を建てたため、市内25の学校が次々老朽化して建て直さなければならない時期を迎えている。
- ・市は公共施設276施設663棟を所有しており、2040年までに2,515億円の維持・管理・更新費用がかかる試算が出ている。約2割カットしなければならない。
- ・明日は今日より良くなると夢が描ける時代（高度成長期）は、借金をしても未来の人たちが返していける、今造った方が良いという考えもあった。これからは、賢く選んで賢く使っていないと選ばれるまちにならないと思う。将来の人たちに負担（借金）だけ残すわけにはいかない。
- ・そうした中、皆がここに住んで良かったと思うまちになるにはどうしたらよいか。行政だけでは、きめ細かなところで地域の皆さんが満足することがで

きないと思う。例えば、高齢者が増え、全ての家庭の見守りをすることができない。

・子どもの貧困も6人に1人と言われている。平成29年度に子どもの貧困実態調査を行いたいと思う。その結果が出たところで、地域でどのような手伝いができるのか皆さんに考えてほしいと思う。

・地域の中で助け合い（互助）の仕組みを作っていくことも大事だと思う。

・一例として、道悦島の地区社協が生活支援サービスを行っている。1時間500円とゴミ出し1回150円の利用券があり、高齢者が家事を支援してもらったとき500円券をボランティアに渡す。ボランティアに400円、100円が地区社協の事務費になる。150円ゴミ出し券は事務費に50円、ボランティアに100円が渡る。このようなシステムを広めて、元気なうちは弱っている人の助けになろうという活動を始めたところがある。

・放課後児童クラブに子どもを送迎する活動をしている地域。週数回、学校帰りの子どもたちを公民館で預かる活動をしている地域もある。

・コミバスが通っていない地域では、市がワゴン車と保険とガソリン、場合により人件費を負担するので、地域の中で路線を決めて運行してくれないかお願いしている。

・地区の看護師等の資格を持っている人を集めて防災の体制を整えた地域等、様々な取り組みをしているが、それぞれの地域の課題を解決するのにどのようなことができるのか行政と一緒にやってほしいと思う。皆さんだけでなく、行政だけでなく、一緒に地域課題を解決していけたらありがたいと思う。

・子どもの数は1975年から減ってきたが、寿命が延び、全体の人口は減らなかったため見えなかった。40年でこうなったものは、元に戻るには同じ時間がかかると思う。元に戻るかどうかもわからない。

・子どもの数は減っているが、保育所や放課後児童クラブの要望は増えている。5年前に予想したときは、今後子どもの数が減っていくので、数年後には落ち着くのではないかと思っていたが、働く女性が増え、幼稚園の需要が減り保育園を希望するようになった。平成30年までには待機児童ゼロを目指して、平成29年秋には0歳から2歳児を専用に預かる保育園をつくり約70名の定員増をしたい。

・放課後児童クラブも高齢者施設が実施することになった。月坂保育園も放課後児童クラブを実施する。学校だけでは足りない放課後児童クラブを色々なところで実施してもらうことになった。

・東京等では、英語教育のため英語だけで過ごす児童クラブ、サッカー、塾、ピアノ等を実施する放課後児童クラブも出てきている。小学校6年生まで、子どもが子どもらしく遊ぶ時間も無いような時代になっていくと思う。そこには、新たな課題が生じてくると思う。

・18歳から20歳代の独身者に住んでもらうには仕事が必要だと思うが、それでも住んでくれるかわからない。しかし、子育て世帯にとっては、島田市は良いまちだと思う。子育て支援サービスや環境が整っているし、安心して暮らせる地域社会がある。これからターゲットとするなら、結婚して子育てをする年代に当てた施策を集中的にやっていくことが大事だと思う。

・平成29年度は、初倉の小学校と中学校をモデルにICTで人を呼び込む教育を実施する。希望者には特別な教育、ICTを活用した特色ある教育、英語教育等を通して、特色ある授業をする魅力ある学校をつくるのが、若者に来てもらう政策の一つと思い、実施しようとしている。

■旧初自治会の人口、世帯について

・旧初自治会の1月31日現在の世帯数は367世帯、人口は931人で、高齢者人口（65歳以上）は319人、高齢化率は34.3%となっている。市の平均が29.6%なので5ポイント高い。15歳以下の人口114人で人口に占める割合は12.2%となっている。市の平均は13.7%なので少し低いが大きな差は無い。市内でも高齢化率が4割、5割を超えている地域もある。子どもの割合が一桁台の地域も増えてきている。しかし、初倉全体は子供の数は増えている。増えているのは、六合と初倉だけ。

■初倉地域の取り組みについて

- ・谷口中河線、色尾大柳線の道路整備は順調に進んでいる。
- ・南原から坂部に繋がる空港アクセス道路の用地交渉と測量が始まっている。
- ・中河に東中瀬工業団地を造りたい。進出したい企業はあるが、地元の同意を得るのに時間がかかっている。全部ができなくとも、先に半分でも造りたいと思う。工業用地とするには、新しいアクセス道路が必要だと思うので併せて整備をしていきたい。
- ・みどり幼稚園の跡地利用については、まだ結論が出ていない。地盤が悪いため高い建物をつくることができない。地盤補強も必要な所。一時は、初倉消防署の移転用地とも考えたが、耐震補強をしたため移転はしない。公園や道の駅が欲しいといった意見も聞く。
- ・金谷だが、国道473号に賑わい交流拠点として日本一のマルシェができることになると、みどり幼稚園跡地が同じような道の駅でいいのかどうか課題がある。
- ・農協や郵便局は初倉の要になる施設。郵便局も手狭。農協も3支店があるが、色々なところで統廃合の話題が出ているようだから、移転用地としてどうか、色々な意見を聞いている。しかし、まだ正式に決めていない。意見があれば聞かせてほしい。
- ・島田吉田バイパスが国道150号線と合流するまでの13.1kmに40年間かかった。バイパスができることで、初倉のまちの中は車の通りが変わった。これからの初倉の中心をどこに置くのか検討し、良いものをこのまちに造っていかなければならないと思っている。
- ・地域別に65歳以上の介護給付費や国民健康保険でどの位お金を使っているのか調べると、居場所づくりを実施している等の高齢者の支援をしている地区とそうでない地区と差が出てくる。初倉中学校区は、65歳以上が6,043人、一人当たりの介護保険給付費は172,291円。一人当たりの介護給付費は14地区の中で2番目に費用が少ない。元気で介護給付費を受けていない人が大勢いるということ。
- ・国民健康保険の被保険者3,651人、一人当たりの医療費は339,974円。介護給付費とトータルすると14地区中5位となる。
- ・医療費や介護給付費がどの位かかっているのか調べている。地域の高齢者が行くところがあるのか、どの位元気なのかわかってくる。地域に情報提供することでやれることが生まれてくると思う。
- ・初倉は特に、住んでいるところを良くしたいと思う人が多い地域である。愛着心を持っている人が住むまちは、これから大きく変わると思う。
- ・農振除外をして工場を建てられるようにしてほしいという話を聞く。島田は、農業が良かった時代に望んで農振をかけることで基盤整備ができた。今は

お茶や農業が悪くなったところで農振を外してほしいということ。藤枝市は、島田が農振をかけて良かった時期に農振がかけられなかった。今は、農振がかかっていないので色々な開発ができる。時代により上がり下がりがあるが、次のまちづくりに向けてこれから上昇していくための行政運営をしていきたい。

金谷中学校跡地等の開発について

- ・金谷中学校跡地（5.5ヘクタール）は、県と共に交流人口を増やす賑わいの拠点をつくることで進めている。一昨年アイデアコンペを行い、昨年は有識者会議、今年は事業コンペをする。民間投資を呼び込みたい。
- ・近くにある「お茶の郷」は、平成28年6月に県に移管して、平成30年3月「ふじのくに茶の都ミュージアム」としてリニューアルオープンする。
- ・牧之原公園も大規模に直し、夜景100選に選ばれた公園に相応しい景観に直している。

■事前質問への回答について

質問	回答
<p>■災害時の新幹線の対応</p> <p>災害時において、新幹線が停車し、乗客が降りるようなことがあった場合、県・市・JR東海はどのような対応をするのか。</p>	<p>●新幹線は、1便最大1,000人が乗車している。</p> <p>基本は次の駅で停まる。または手前の駅で停まり発車しない。どうしても駅と駅の間で停まることがある。その場合、JR東海が公表している災害対応によると、列車が途中で停まり走行が困難なときは、業務用自動車等でお客様の救援活動をするとかかれている。</p> <p>基本は駅のコンコースや待合室で雨露が凌げ、トイレがあるところにお客様を収容するために防寒用アルミシート等を備蓄している話だったが、実際に停まり、お客様が降りてくる事態になったとき、一時的な避難者として避難所への受け入れを考慮しなければならない。1次指定避難所が満杯であれば、2次、3次指定避難所に一時避難させなければならないし、水も食料品も支給しなければならない。</p> <p>避難所に地区外の人が入ってくる可能性があることは、初倉全体に言えること。南原や井口地区は、東名高速道路から降りてくる人がどのように動くのか、災害時の問題を考えるとき課題となっている。</p>

	<p>J Rと県が早い時期に、帰宅困難者をそれぞれの地区に送るために最大限努力するとされている。市もJ R東海や県との連携を進めていかなければならないと思う。</p>
<p>■新病院建設事業について</p>	<p>●地上7階建（ボイラー室含めると地上8階）、屋上にドクターヘリ用のヘリポートが付く予定。県道の渋滞が酷いので、右折レーンをつくり道路の付け替えをしていく予定。</p> <p>病床数 445 床（現在 536 床）。平成 19 年から閉鎖している精神病床と療養病床 35 床を減らすことになった。</p> <p>国の方針は、2025 年を目指して大幅な医療制度改革を目指している。高度急性期の病院、急性期の病院、慢性期の病院、回復期の病院とあるが、島田は急性期の病院で生き残る選択をした。</p> <p>療養病床については、次に行くところが見つかるまでは今まで通り市民病院で看る。市民病院には、療養の患者はほとんどいない状況。今までと変わらないことを知ってほしい。</p> <p>国が目指す医療制度改革は、病院（施設）から家庭に戻そうとしている。医療費が毎年 1 兆円ずつ増えているので、国は医療費を抑制したいという動きの中で在宅への流れが大きく出てきている。平成 28 年度から島田も 24 時間訪問看護ステーションを設置している。医師の指示書に基づいて看護師が対応し、必要であれば入院をしてもらう体制を取っている。</p> <p>入院患者の半数以上が高齢者であるため、安心して入院できるユニバーサルデザインに配慮する病院をつくる。</p> <p>1、2 階が検査・外来部門。3 階がスタッフエリア。4 階以上が入院病棟。駐車台数は、約 960 台分のスペースを設ける予定。</p> <p>平成 29 年 3 月に基本設計ができる。来年度は詳細設計を経て平成 32 年度に開院予定となっている。</p> <p>平成 19 年頃から病院建設の話は出ていながら実現できなかった。</p>

	<p>施設の老朽化が進んでおり、病院建設はしっかりやっていないと ならない。</p> <p>病院広報紙「ちょうしんき」には、病院の紹介状が無くても受診で きる診療科と紹介状が必要な診療科が載っている。昔、市民病院は 紹介状がないと診てくれないと言われていたが、今は6割程度の診 療科は紹介状無しで診るようになっている。</p> <p>先月、手術支援機器ダヴィンチを導入した。今の保険適用は膀胱 ガンと前立腺ガンだが、今後は胃ガン等にも適用されるのではない か。浜松医大・聖隷病院・県立総合病院にしか導入されていない。県 内で島田市民病院が4番目に導入した。導入費3億5千万円。この 機器を導入したことで市外から手術を希望する患者が来ている。今 月から手術が始まっている。</p>
<p>■地区外からのゴミ捨てについて</p> <p>道路脇のゴミ集積場に、地区外の人がゴミを置いていくので何とかならな いか。</p>	<p>●地区によっては、名前を書いて出すことを徹底しているところも ある。</p> <p>島田市は、ゴミの捨て方を啓発する看板を持っている。個々の集 積場に合わせた看板を作って渡すので、環境課衛生係まで連絡をし てほしい。</p> <p>市全体の課題。しかし、ゴミの日に監視人を置かなければならな いというのも悲しい話。皆の目が届くような、または名前を書いて 出すような何らかのルールづくりが必要と思う。</p>
<p>■照明灯の設置について</p> <p>市道の交差点（国営用水路沿いの新幹線下付近）は、近年交通量が増加し、 子供見守り隊が登校時に旗振りを行います。夜間は防犯灯のみで暗く、自転 車通学の高校生や帰宅が遅い中学生の安全のために、市道交差点の道路照明 灯の設置を要望する。</p>	<p>●夜間の道路照明灯は、道路状況や交通状況を見て必要に応じて設 置しますが、地元から要望書を上げていただきたい。全ての自治会 から一度に上げられても応えきれないのは事実ですが、各自治会が 要望書を出していただいたところで、市は担当課をグループにして 現地調査をしている。現地を見て、市がやるべきことなのか、県な のか、民地の問題等を確認し、実施の可否の返事をしているので、自治 会からの要望書を上げていただければありがたい。</p>

	<p>夜間の道路状況や沿道の状況等で照明灯が必要ということであれば設置できると思う。要望書を出していただいて、警察等の話し合いの中で決めさせていただく。</p>
<p>■県道の通学路部の改良について</p> <p>県道島田吉田線の色尾交差点から島田方面に約80m区間は、小学生の通学路として利用されている。歩道整備の代わりに路肩部にペイント表示をして車に注意喚起を図ってもらいたい。</p>	<p>●県道なので、市が勝手にペイントをするわけにはいかない。自治会から要望書をいただき、市から島田土木事務所をお願いをするという形を取らせていただきたい。</p>
<p>■信号機の設置について</p> <p>色尾南交差点から東側（大柳方面）に新設される市道が開通すると交通量が増え、かつ、用水路に沿った通学路の利用者が現在多いので、この交差点（JA大井川 初倉支店北側）に歩行者用の信号機を設置してほしい。</p>	<p>●要望は市がいただきますが、信号機や横断歩道については、警察にお願いすることになる。警察は県警本部に上げて、県警本部の判断で設置される。昨年市内で信号機は2機しか設置されなかった。警察も信号機を付ける予算が無い時代になった。国道交通省が道路関連につける補助金予算が、15年前は約16兆円だったものが、今は約5兆円に減った。県からの予算も7割カットになった。</p> <p>そのような状況の中、老朽化したものが一杯あり、市は市道1,180km、1,152橋を所有しており、5年ごとに点検して修繕するようになっている。現在、新規建設6割、長寿命化4割だが、だんだん長寿命化の比率が高くなる時代になる。</p>

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	<p>■側溝整備について</p> <p>（株金印付近）10年以上要望しているが、水路の土側溝がU字溝にならない。昨年、地権者立会いで確認し、平成28年度以降と聞いている。</p>	<p>●農林課に要望は出ているようなので、再度確認して対応状況をお知らせする。</p>
2	<p>■道路舗装について</p> <p>旧初地域は、土地改良を実施しているが、農道ということで市道にな</p>	<p>●農政関係の補助金が付かない。市道も予算が付かない。道路脇の農作物に埃が被って困るという話を聞いている。限られた予算の中で、毎年つな</p>

	<p>っていない。ここ2年予算を取っていただき一部舗装できたが、1年で約900㎡。救急車も入れない等、農地だけの問題ではなく土地改良を実施している。農政関係しか予算が取れないが、生活道路なので予算が取れたらお願いしたい。このままだと旧初地域だけで舗装に15年かかるので早急に対応をお願いしたい。</p>	<p>げてはいるがスピードアップができない。約束できなくて申し訳ないが、事情はわかるので少しでも進むようにやっていくしかない。農道とは異なるが、一般道路は社会資本整備総合交付金という国からの補助金をもらい、それに県と市の予算を出して道路をつくるが、昔は必要な道路はおおよそ100%補助金が付いた。今は補助金が付くのが約52%。継続している道路を先にやらないとならないので、新しい道路の着手が遅れていく状況。計画的に実施していくしかない。農林課にも話をしていく。</p>
3-1	<p>■金谷中学校跡地について 金中跡地についてはどのようになるのか。</p>	<p>●マーケットサウンディングという手法で、あの土地をどのように使ったら良いか提案をいただくことを昨年実施した。全国から話をいただき、様々な条件の中で一番良い民間に進出してもらおうということで、県と市が一緒になって事業を提案していただくという段階。</p>
3-2	<p>■保養地として使えば良いと思うが。</p>	<p>●金中跡地だけであれば問題ないが、土地が足りないということで、国の補助金を入れて試験場の土地まで買っている。公共性の高い賑わい交流に資するものとして使わないと、国からの補助金を返還しなければならない。市の土地だが、国の補助金が入っている難しさがある。</p>
3-3	<p>■お茶の郷の交差点改良は準備段階だと思っている。</p>	<p>●お茶の郷と金中跡地を回遊性のある場所にするため、準備段階として幅5mの歩道を付けた。</p>
3-4	<p>■「時之栖」はやらないか。</p>	<p>●「時之栖」にも使うようであれば提案をいただきたいと思う。 話は違うが、指定管理料として高いお金を払って「時之栖」にやらせているという質問を受けたが、川根温泉ホテルは市所有だが指定管理料はゼロ。市は負担せずに経営をしてもらい、利益の2割を市に戻してもらう形で運営している。</p>
4-1	<p>■お茶の郷の従業員の雇用について お茶の郷は、ハラダ製茶が運営していたが県に移管された。今まで雇用されていた人たちが解雇されたままになっている。働きたいけれども働けないと聞いている。どのような状況か。</p>	<p>●リニューアルされて最初は数ヶ月でオープンという話があったが、県が大きなリニューアルをしたいという意向があり来春まで延びた。1年以上空くため、その間雇用を継続することができなく、一度仕事をキャンセルになった。 市は、地元雇用を県に要望をしている。オープンするにあたっては、地</p>

		元優先で雇用をしてもらえと思う。しかし、施設が従来と同じような販売所となるかはわからない。県は、ミュージアムショップやレストランと言っているが、何人雇用するのか、直営か指定管理で運営するのか等がはっきりしていない。そこが決まれば、雇用の人数の話も出てくるのではないか。
4-2	■今まで雇用されていた方を優先的にということは考えられないか。	●ある程度雇用できると思うが、一部の方はハラダ製茶に勤めたと聞いている。また、一部の方は他の所に勤めたと聞いている。戻りたい希望があることも聞いているが、同じような職種で、同じような店になるかはわからない。これまで雇用していた方は、こちらでも優先的にお願いしたいと思っている。こちらからは県にしっかり伝えていきたい。
5-1	■ICT教育について ICT教育は教育特区か。	●特区制度は受けていないが、藤枝市と協同事業で約5億円の予算を付けて、先進的な教育や地元企業にICTへの設備投資をしていただき人を呼び込む。クラウドソーシングでの仕事を増やすことに取り組んでいきたい。
5-2	■子どもの教育はその一環として考えるのか。	●中学校の先生に小学校の授業ができるように兼務の辞令を出して、小中学校の連携を今まで以上に強くしていきたい。英語の授業やICTを皮切りに、専門の授業は専門の先生がやるような教科制度を小学校で導入できないか等、教育を変えていきたい。
6	■小学校の再編について 湯日地域は、古い人たちは地域を盛り上げようと行事を色々やっている。若い世代は、行事を減らしてほしいと言っている。空港が出来た関係でしろやまの管理や奉仕作業で大変。 古い世代と若い世代の考え方にギャップがある。農家の長男も家を出て通勤農業をしており、近隣の小学校に通学している。 将来を心配している。湯日小学校の子は、揉まれていないので弱いと言う。若い世代は悩んでいる。	●若い世代が、子どもが小学校に入学するときに、湯日小学校に通わないようにアパートを借りて出てきてしまうことは大きな課題。 年輩の方々は、歴史のある湯日小学校を地域の核として、皆で盛り立て、湯日を元気にしようと一生懸命やってくれている。 昔、笹間小中学校が廃校するとき、地元は大反対だった。笹間は小中学校があるから地域があるので、学校が無くなることはもってのほかと反対運動があった。話し合いの席上、若い母親が「皆さんの子どもが残っていればこのようなことにならなかった。自分達の子どもは他地区に出しておきながら、今ここにいる私達に責任を負わせるのか。」と言った。それで一気に流れが変わった。若い保護者は、ある程度の規模の中で子どもを育

		<p>てたい、部活やクラス替えがあるところに行かせたいと考える。多様な価値観に触れるチャンスは人数が多くなければならない。湯日小学校の課題は確かにある。財政的な意味で学校の再編を考えたことはないが、子どものためにどのような教育環境が相応しいのか議論が必要。</p> <p>例えば、北部4小学校（伊太、相賀、神座、伊久美）の学区内で昨年1歳になった子どもが18人。1学校平均4, 5人。これ以上子どもが減ったらどうするのか、やはり地元の人が考えるときに子どもが育つ環境にとってどうなのか考えてほしい。確かに地域は大事だが、その代わりになる拠点を皆で考えてつくっていくことはできる。若者に住み続けてもらい、できれば良い教育環境で子どもを学ばせることができるようにしたい。市内で問題提起はしている。昨年、相賀に行ったとき地域で考えてほしいと話をした。</p> <p>湯日に宅地になる場所が無いことも問題。若い世帯が家を建てられない。若者が住み続けられるために何をしたら良いのかという視点において、もう一度議論すべきと思っている。学校は大事だが、これからの若者を思うと皆で考えていかなければならない。</p> <p>ボランティアが大変だという話があったが、高齢化していくと、川ざらいや文書配布も大変になっていく。行政もできることはやっているが、これからの地域は色々な課題の中で少しずつ変わっていかなければならない。</p> <p>例えば、年賀状が縮小している郵便局は新たな事業に着手した。遠方に別居している子どもの依頼を受けて、郵便局が定期的に親の家を訪問して、聞き取りをして子どもに報告するサービス。そのうち、広報も郵便局に配ってもらう時代が来るかもしれない。</p> <p>行政も規制をかけることが役割だったが、民間がやりやすいようにお手伝いをしていくように変わってきている。</p>
7-1	<p>■歴史財産のPRについて</p>	<p>●今井信郎は刺客であるかもしれないというところが難しいと思う。</p>

	<p>NHK大河ドラマ（井伊直虎）は、急に出てきた話ではなく浜松市がNHKにPRしていると思う。</p> <p>島田にも、今井信郎や伊佐新次郎等の大河ドラマになっても不思議ではないストーリーがある。蓬莱橋に観光バスが停まっているが、お金が落ちない。世界遺産の蓬莱橋から今井信郎記念碑まで少ない予算でハイキングロードができるのではないか。今井信郎の話も、知っている人は知っているのだが。</p>	<p>歴史上の人物ということでは、中条景昭が幕末700人の武士を牧之原台地に入れて開墾をした。一昨年、千葉で勝海舟が開拓団を激励する手紙が見つかり、中条景昭をここに入れたのが勝海舟だとわかり、勝海舟と幕臣達の間接関係を売り出すことで銅像が建つかも知れない。</p> <p>女性の活躍は時代の流れ、井伊直虎は女性当主ということで脚光を浴びた。今井信郎を売り出せるチャンスを狙わなければならないと思う。</p> <p>ここは歴史の深いところ。自分たちの持っている資産に気付くことが大事だと思う。現在、博物館で刀剣展を開催しているが、名だたる武将の刀が島田で作られていた。歴史のまちであることを島田は使うべき。川越し遺跡が残っているのも島田だけ。自分たちが持っているものに磨きをかけていくことも大事だと思う。</p>
7-2	<p>■今井信郎については、平成28年12月頃にNPO法人の届出をした。3月頃には設立総会を開催する予定。河津桜等を今井桜と付けて、接ぎ木の専門家に指導していただき、2月4日現地視察をする予定。屋敷裏の山道を拡幅する計画を持って今春から進めていくと思う。</p>	<p>●島田は帯桜を増植している。10年、20年先に帯桜が咲けばいいと思う。</p>
8-1	<p>■色尾大柳線について 色尾大柳線が途中で止まっているがどうなるのか。どこまで行くのか。</p>	<p>●工事は進めている。最終的には大井川の土手の近くまでいく。平成31年、32年頃に谷口中河線との交差点がラウンドアバウト（信号機が無い環状交差点）になる予定。</p>
8-2	<p>■まだ家が建っているところがある。</p>	<p>●家が建っているところは、用地交渉等で時間がかかることがある。</p>
9	<p>■信号機の設置について （事前質問の回答で）県道で歩道がないところを通学路にしている話があったが、警察も承知している。色尾交差点の信号機を取って、旧初に持ってきても良いとの話もあった。信号機を取って事故が発生した場合の責任問題となるため自治会として躊躇した。</p>	<p>●信号機を外す話は他地区でもある。信号機を移動することを警察から言われたが、地元で許可を求められても、地元は信号機を外して良いとは言えない。市は承知しているのかと言われた。警察は、信号機の使用回数等の情報を持っており、使用回数が少ないから移設したいという話をしていく。警察も新しいものをつくる時代ではなくなった。</p> <p>信号機をどうするのか警察から行政に相談がない。地元の要望を市から警察にすることができるため生活安心課に相談してほしい。</p>
10	<p>■牧之原土地改良の多面的機能支払制度を使っていきたい。</p>	<p>●制度については、農地保全や新規就農者を増やすためにも地元で手伝い</p>

<p>市も県の予算が付くなら出さなければならないが、財政を助ける意味で皆さんがその気になれば使って使えないことはない。</p>	<p>をしていただければありがたい。協定締結には、市も立会い、農林事務所や土木事務所との協定を結ぶようにしているので検討していただきたい。</p>
---	---

※ 回答は全て市長から回答した。

④当日の様子

